

台風委員会への貢献

台風委員会（The ESCAP/WMO Typhoon Committee : TC）は、本部をマカオに置く、1968年に設立された政府間組織で、アジア太平洋経済社会委員会（ESCAP）と世界気象機関（WMO）が共同で運営しています。主な目的は、・台風による被害の軽減、・気象・水文・防災の協力強化、・台風対策の計画・実施の調整であり、現在、14の国と地域が加盟しています。日本からは ICHARM と、国土交通省水管理・国土保全局、気象庁などが参画しています。

台風委員会は気象部会（WGM）、水文部会（WGH）、防災部会（WGDRR）、トレーニング・研究連携部会（TRCG）の4つの部会で構成されており、各作業部会を統括し全体調整を諮る役割を諮問部会（AWG）が担っています。毎年1回、加盟国が集まり、活動報告や今後の方針を決める「総会」が開催されます。

（詳細は台風委員会ホームページ（<https://www.typhooncommittee.org/>）参照）

水文部会においては ICHARM 研究員が部会長を長年務めています。各会合においては、積極的にプレゼンテーションを行ったり、議論をリードするなどして、ICHARM、土木研究所そして国交省の国際的なプレゼンスを大いに示すとともに、台風委員会のメンバー間の国際的な連携や技術交流を強化し、特に水文に関して日本がリードすることに貢献しています。



写真1 第58回年次総会の参加者（2026年3月）



写真2 水文部会の活動報告をする宮本議長

<Kintanar（キンタナール）賞の受賞>

ICHARMは、2021年2月23～25日にオンラインで開催された台風委員会第 53 回総会において、国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構（JAXA）及び一般社団法人国際建設技術協会（IDI）との共同により、2020年Kintanar 賞を受賞しました。

Kintanar氏（Dr. Roman L. Kintanar）は、フィリピン共和国の大気地球物理天文局（PAGASA）長官であり、ECAFEとWMOとの協力を得て、台風委員会を構築した人物です。キンタナール賞は台風委員会の使命及びビジョンの遂行に顕著な功績のあった組織に授与される、大変格式の高い表彰であります。

台風委員会による洪水ハザードマッピング（FHM）プロジェクトへの支援やJAXAが開発・提供する衛星プロダクトの活用により、ICHARM が台風委員会に加盟する14の国と地域における洪水予報・管理能力向上に貢献してきたことが高く評価されました。2009 年に発行された、台風委員会FHMプロジェクト最終報告書において、本プロジェクトは台風委員会水文部会の中でも最も成功したプロジェクトの一つであるとされました。



写真 3 宮本主任研究員の受賞スピーチ

（台風委員会第 56 回総会（2024 年 2 月）にて）

※キンタナール賞について（台風委員会ホームページ）

<https://www.typhooncommittee.org/rules-and-procedures-of-dr-kintanar-award/>

※「2020年キンタナール賞の受賞に寄せて」（ICHARM Newsletter Vol. 60）

https://www.pwri.go.jp/icharm/publication/newsletter/pdf/icharm_newsletter_issue60.pdf#page=19